

ますから、グループ間討論に対して発言する場合、班員全員が挙手することを条件にします。その挙手の早さも指名の条件になります。中学1年の初期には“発言競争”というゲーム感覚で発言を競う練習も実施します。指名者の発言のスタイルは、必ず支持する意見はどれかを述べてから理由を述べさせます。慣れていない生徒はいきなり理由を述べ始めます。この形式をトレーニングで身につけさせます。もうひとつは、発言者は顔と体をできるだけ多くの生徒がいる方に向かせるというルールです。ただ、気の弱い生徒や慣れない生徒はつい教師の方を向いて述べてしまいます。そういう時は教師が移動して自然にその方向に向けるように誘導し、発言する際の態勢に慣れさせます。発言をする際には、前の発言にどう関わっていくかの Skill を身につけさせるために「その発言につけたし（賛成）」「その発言に反対」「その発言に質問」「その発言とは別件」のコールをさせながら挙手をさせます。前の発言を正確に理解することなしに深い意見を述べることはできないからです。

集中させることの大切さ

この指導で大事なことのひとつに、「小グループ討論の終了をきちんとする」「全体討論（グループ間討論）に移る前に全員に集中させる」ということがあります。“他人（ひと）の話は集中してきちんと聞く”という当たり前の Skill を小学校時代に身につけてこなかった生徒は、意見交換の最中に私語をしたり集中しなかったりし、学ぶことができません。そこで、討論 Skill の指導の最初に、小グループ内討論の終了時間は絶対守ること、教師の合図で全員が集中すること、を約束として徹底します。内容の深い討論の前提となる、当たり前の条件ですが、そこを手を抜かずにはしっかり実施しています。

田代 淳一

たしろ じゅんいち

茗溪学園中学・高校 教務部長



化学の教師です。茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いながら進学していく姿を見て応援してきました。よろしく願います。

討論の楽しさと意義

たくさん意見が出た場合、生徒を整理して合意点不合意点を明確にする Skill は非常に高度なレベルです。中学段階では、各班が自班の意見を黒板に書き、12班分をグループ間討論で淘汰・整理しながら絞り込んでいきます。その検討はあくまで客観的な論拠です。主観ではなく、ひとつ一つの表現の形象の裏にある作者の意図を、鋭くときには楽しい討論を基に見抜いていきます。この丁寧な発止の楽しさを体験していくと、他人の意見を聞いた上で納得し自説を変えていく“揺れ”こそが自分を深めることにつながることに気づき始めます。「説得する力」の大切さとともに「説得される力」の大切さ、つまり相手の意見の正しさを正当に評価して自分の意見を変えることの論理性の重要性に気づくのです。高校の現代文の討論の授業では、わざと負けを承知で少数派の立場をとり、形のうえでは論争に負けたとしてもそれによって討論の質が深まることをねらってくる生徒も出てきます。また周りの生徒もそれを承知で論争をしかけます。その種の挑発には乗った方が学べるし面白いことを知っているからです。

私が以前学年主任をした学年の中学3年の頃の話です。中学3年では国内研修に学年全員で4泊5日のフィールドワークに出かけますが、その学年リーダーを選出する学年集会がありました。選出すると言っても、各クラスから選挙で選ばれた男女各1名が抱負を述べて学年全体で承認する会でした。あるクラスの男子候補者が、つい油断してウケをねらった軽いトーンの演説をしました。彼に対する学年生徒の批判は鋭く、議長（勿論生徒です）の裁きも見事で何とその生徒は不承認、落選してしまいました。そのクラスは再選出となり、その落選候補も再度立候補して今度は誠実に抱負を述べて何とか学年リーダーに就任できました。落とす方も見事、復活する子もまた見事です。

茗溪流“討論 Skill”、感じ取ってもらえたでしょうか。今回の記事と同様の内容は本校の国語科教諭である杉山昭信氏の投稿論文、「逆説的発想で話し合いをとらえ直そう」、楽しい学級経営、明治図書、No.103,1994.5.、「学び方学習としての支えあい」、教育科学国語教育、明治図書、No.503,1995.2.でもご覧になることができます。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1
TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455
www.meikei.ac.jp